**雪と白川郷**

白川郷は庄川峡の一部で、日本海から約50㎞内陸にある白山（標高2,702ｍ）の麓にあります。毎年冬になると、海からの湿った空気が上昇し白山に何度もぶつかるようになり、11月下旬から3月にかけて庄川峡にはたくさんの雪が降ります。白川郷の住民は昔から、大雪の降る天候に順応して暮らしてきています。非常に有名な話として、この地域の伝統的な合掌造りの家屋の茅葺き屋根が急傾斜になったもともとの理由は、屋根に積もった雪やそれが解けた水により家屋本体が損傷するのを防ぐためだったことがあります。しかし、屋根を急傾斜にしても雪の付着を完全に防ぐことはできず、ほとんどの住民が少なくとも毎年冬に一度は雪下ろしするために屋根に上る必要があります。雪の重みから家屋を守るために地元で取られているもう一つの対策として、屋根の端の下側の壁の側面に沿ってフェンスを設置するやり方があります。雪囲いと呼ばれるこういったフェンスを設置すると、屋根から落ちて地面に積もった雪で、家の壁が押しつぶされるのを防ぐ効果があります。白川郷は、かつては雪が山道を塞いで外界から遮断されることもありましたが、今では年中いつでも簡単に出入りできるようになりました。1月と2月には、日曜の夜にライトアップが行われる荻町集落の冬景色を鑑賞するためたくさんの観光客がやってきます。